



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 TEL:0593-31-1670
 FAX:0593-32-0733

掲示板法話

念仏においてのみ

相手の立場に立つことができる

(曾我量深師)



先日、あるお宅の入仏法要にでかけました。老夫婦で北陸地方にお住まいでしたが、連れ合いの死を契機に、娘夫婦と同居することになり、新調のお仏壇にご修復成ったご本尊をお迎えされたの入仏法要でした。遺影を眺めつつ「奥さん、かなりお若い頃の写真ですね」と尋ねましたところ、「十八年間寝たきりでしたので、病気になる前(六十二歳)の写真なのです」とのことです。

奥さんが寝たきりになった時、六十五歳であつたおじいさんは八十三歳の昨年まで何と十八年間、連れ合いの介護をなさつた、というのですから驚きです。そこで、この人に多少でも寄り添う法話をと考えて、『在家仏教』という雑誌で読んだ同じような事情の老夫婦のお話を紹介したので。

ある日、おばあさんが失禁をし、余りの悪臭に腹が立つて掃除機の柄でおばあさんを叩いてしまった。そのとき、「済まんことをしてしまいました」という自省の念を次のような歌に詠まれたのでした。

失禁の妻に向かいて掃除機の柄で
うつつ我が姿を悲し

「その後、二度とこんなひどいことはするまいと覚悟を決めて精一杯介護に努め、オムツや寝巻きを取り替え、シーツを取替えると、心なしか微笑む妻の顔を見る度に喜びが感じられるようになり、介護する自分と介護される妻の垣根が取り払われたように感じるようになった」というのがあらましです。

それを聞くおじいさんの頬に涙が伝い、「私は妻を叩くようなことはしませんでした」が、私も同じようなことを思つた日は何度かありました。私のことと聴かせてもらいました」と手を合わせて深々と頭を下げられました。

十八年の介護を一人で担いながら、愚痴らしい話は一切なく、なおご自身の心中を深く省みられ、「我が事として聴いて下さる」姿に胸を打たれました。

更に、「お医者さんや看護師さんからよくやってもらいましたね」と誉められました。妻の顔を見ながら「ごめんね、ごめんね」と心の中で謝っていましたと言葉を継がれました。この澄み切った自省の眼は、やはり親鸞聖人のお導きに感化

された念仏者ならではの眼だと敬服せずにはいられません。

亡き奥さんへの慈愛に満ちた言葉の数々を聞かせていただきながら、曾我量深先生(真宗大谷派の碩学)の

「念仏においてのみ、相手の立場に立つことができる」という名言がここに生きていたのだということを実感させて頂きました。

介護する人はされる人の身になる。介護される人はする人の身になる。夫は妻の身に、妻は夫の身になる。子は親の身になり、親は子の身になる。……凡夫には至難の技ですが、念仏においてのみそれが実現するというのです。生活現場でお念仏の味わいを深められたら、「辛い人生も捨てたものではない」と人生観が変えられてゆくのです。

☆行事ご案内☆

例会:11月18日(日)午後7時半

- ① 地域社会の現状と「絆づくり」について
- ② (続)「聖典」からの再発見・活用の勧め

秋勸進:11/23(金・祝)午前8時より

行事様が巡回しますのでよろしくご協力を！お留守の方はご連絡下さい。(輪灯みがきなど報恩講準備も行いますのでよろしく)

予告:12/1(土)夜7時半より、庫裡にて

「お内仏報恩講」お誘い合わせてお参り下さい

三重組コーラス

※11/3午後川北光了寺(報)出演、娘達よ、親鸞さま、
 ※11/15夜智積西勝寺(報)出演念仏、聖夜、親鸞さま
 ※11/22(木)西本願寺御堂演奏会(52名)5回目の参加バス6時半小杉、6時50分桜。時間厳守、楽譜、参加ハガキ、白ブラウス、黒ロング、数珠。11月の夜は練習無し。

キッズサンガ・杉の子合唱団・11/10(土)午後4時月に一回子供の向けのお経教室。ゲーム、紙芝居など。誰でも参加OK。無料

一縁会テレホン法話:059-354-1454へお電話を。5人の講師が週替わりで3分間の法話。24時間いつでもOK。



平成19年10月7日 伊藤正雄様・兼子様ご夫妻
金婚式記念参拝・小杉善正寺にて

☆ホットニュース☆

☆十月七日東坂部、伊藤正雄様・兼子様ご夫妻が金婚式を迎えられたお礼の報告参拝をされました。

坊守スケッチ

まさかの時こそ地域の絆

「小杉にも女性の自主防災隊ができて、私もメンバーの一員よ。新しい制服も作って結団式に参加したの」と若いお母さんが抱負を語ってくれました。彼女は仕事を持ちながら3人の子育て中の身なのに、よくぞ引き受けてくれたと、頭が下がる思いがします。さすが日頃から冠婚葬祭のお付き合いを密にしている、地域の結束の固い土地柄です。田舎の濃厚な人付き合いを、うつつというしと嫌う人もいますが、地震やテロなど何が起ころうともおかしくない時代には、近所の助け合いは心強い味方です。今回自主防災隊に参加した若い人達の中には、子供の時から、報恩講や盆参り等のお仏事に、大人と一緒に参りしていた人が多く聞きます。その雰囲気知らず知らずのうちに子供心に染み込んでいたのでしょうか？彼女が引き受ける気になったのは、人の繋がりの大切さを学ぶ場を最優先に守り伝えたおかげかもしれません。彼女を囲む家族や親戚、みんながお寺の日曜学校で育っていた仲間でした。

どではないでしょうか？起ころうたら自衛隊や政府が何とかしてくれると、他人を当てにして自分の備えは何もしていないのが実情です。国の救助が本格的に始まるのは三日かかるそうです。災害直後の三日を何とか生き延びるには、自分自身の覚悟と準備、地域の協力が絶対不可欠です。そのために私達の地域では、防災訓練が盛んに行われています。

しかし都会では高層マンションが立ち並び、地域住民の人間関係は薄くなって希薄です。隣に誰が住んでいるかも分からないといえます。ひとたび大地震が起ころうた時には、想像を絶する事態が発生するそうです。高層階の住人は停電でエレベーターに閉じ込められパニック！キッチン・トイレは使用禁止、避難所には収容しきれない人が溢れかえり、頼みの綱のケータイは使用不可。都会の至る所で『高層難民』が発生するそうです。それはまさに『現代の地獄絵』に匹敵するものと専門家は語っています。

人はまさかの時にその真価が問われます。快適で便利な生活に安住しすぎて日頃の用心を怠りがちです。常に不測の事態を覚悟して準備することが大切です。自分一人がいい目をした時よりも、他者のために何かが出来た時に、人は一番喜びを感じ、いのちが



輝く時です。自分に出来る小さな親切を見つけて行動に移したいものです。

☆寄稿

四日市市 川崎 孝一
☆予期仕事 癌再発も 妻健気
施術に向かう 第二ステージ

☆二年振り 付き添う部屋の窓に見る
メタセコイヤの 尺余に伸びるし

☆蟻伏の 歳月かけて 法師蟬
この世に鳴くは 数日だけ

☆四箇月余も 庭に咲く花が是
クリスマスブルー テレビに映る

☆逝きて二年 兄達宛に 今も着く
図書や雑貨のカタログ隅に

☆古薬缶 種々在る墓所に 大きめを
振りて水汲み 花筒洗う

☆カンバ有難う☆
匿名様数名よりお志や切手等を頂戴しました。

キッズサンガ・杉の子合唱団
◇十一月十日(土)午後四時より
お経、ゲーム、紙芝居、お菓子、新しい
お友達もどうぞ、誰でもOK

☆秋勸進(十一月二十三日午前)に来
年度の年回裏とカレンダーをお配りし
ます。年回の日取りは早めにおとり下
さい

☆十二月一日(土)夜7時半、庫裡で。
「お内仏報恩講」皆様のお参りお待ち
しています。ぜんざいや粗食を用意し
ます。

三重組コーラス

※十一月三日午後一時 光了寺出演
※十一月十五日夜六時半 西勝寺出演
※十一月二十二日(木)西本願寺御堂
演奏会五十二名。5回目の参加、六時
半小杉、六時五十分桜バス乗車。楽譜、
数珠、服装コーラス用、ご協力感謝。

☆編集子より☆

「善正寺だより」第一六七号をお届けし
ます。◇紅葉前線が山から野へ、南下し、
秋の深まりを感じる頃となりました。
「秋深き隣は何をする人ぞ」という芭蕉
の句を思い出します。人口減少時代に
入り、地方の衰退が進んでいるからで
す。◇最近重視される行政課題は「地
域防災」と「少子・高齢社会」で、いずれ
もキーワードは「絆づくり」です。その
意味で坊守スケッチ記載の「自主防災
隊」結成は朗報です。「まさか」の時の備
えは「平時」、つまり「今」なのですから。
◇しかし、行政依存では限界があり、
逆に行政が市民・県民の参加・主体性を
期待しているのです。ある会議の場で
「一隅を照らす人こそ国宝である」(伝
教大師)という言葉を紹介したら、皆さ
ん傾聴、賛同してくれました。◇「絆づ
くり」の基本は「仏教精神」です。「相手
の立場に立てる念仏者」が期待されてい
ます。浄土真宗の出番です。開かれた
絆づくりを目標に頑張りましょう。

金木犀の香りに秋の深まりを感じる季節となりました。
目立たない花ですが通り過ぎるからいい香りに振り向くとその存在に
気づく奥ゆかしさを秘めた花です。花屋の店先で咲き誇る花
よりも道端でひっそりと咲く花が私は好きです。サザリマンリ柳で
「同窓会行ってみれば老人会」という句を見つけ大笑いしました
同級生よりも若く見られたと思う気持は誰しも同じとびきり
オシャレして行ったものの年相応の現実を知らずんがカリして
る光景が浮かびます。私も白髪が目立ち始め染めようか迷
っています。同年代の人は殆んど染めているのですがそれは半
永久的な作業。見栄を張ることよりも時間的煩らしさを
考えるとこの足を踏みます。結局住職はすつと前からまぶた
から私だけ染めても釣合いかとれないと落ち着く所に落ち着
きます。最近は無理をすると膝や腰に負担がかかるようにな
りました。運動のおかげですぐ回復しますが、会話の中にも
「アレアレ」という言葉が飛び交い頭の中も減退傾向。しのび
寄る老いをひしひしと感えています。アメリカの詩人ポルトマンが
「若きはうるわし老いたるはさらにうるわし」という名言を残して
います。老いは失うことだけをではなく、年を重ねる苦勞を乗り越
えたからこそ味わうことが出来る。人生の智慧もある筈です。そ
れを見つけて子供達に伝えていくのが今後の私の課題です。
こんなことを考えるのも私が人生の秋を迎えたからでしょうから、
11月はコーラスの予定満載、5回目出陣の2007御堂演奏会も
52名の参加で協力に感謝します。秋勧進は11/23金午
お内仏報恩講は11/25夜です。参加お待ちしています。

平成十九年十一月

合掌

善正寺坊守持